

2024年6月25日

実践女子大学・実践女子大学短期大学部  
教員研修 実施報告書 (Web 公開用)

1.所属	文学部 (言語文化教育研究センター)
2.職名・氏名	ブラック・ヨーガン
3.研修期間	2023年4月1日 ~ 2024年3月31日
4.研修先機関 (国名)	エバーハルト・カールス大学テュービンゲン (ドイツ南部) Eberhard Karls Universität Tübingen
5.研修課題名	グローバル環境下の南ドイツ語方言の調査 Investigation of southern German dialect usage in a globalized setting
6.研修経過 (月単位で記載してください) 例)4月上旬~5月下旬:	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 4月上旬~翌年3月下旬 地元の施設“Stammtisch Blaue Wolke”(スタミッシュ・ブラウア・ヴォルク)において、約2週間ごとに数名のメンバーにインタビュー調査を実施した。また、同クラブのメンバーを観察調査し、彼らの方言について記録を取った。</li><li>■ 4月上旬~翌年3月下旬 地元住民のクラブ“Obstverein”( Obststueckverein)に入会し、定期的に行われる集会に参加しながら、クラブメンバーの観察および彼らの方言について調査し記録を取った。</li><li>■ 7月上旬~翌年3月下旬 “Trommgesellenzunft Munderkingen e.V.”(登録社団法人トロンムゲゼレンズンフト・ミュンダーキングゲン)で週1回のペースで行われる集まりに参加してメンバーを観察し、彼らの方言について記録を取った。</li><li>■ 8月上旬~2月下旬 地元住民のクラブ“Fasnet Verein Surfer 87”(ファスネット・フェルアイン・ザルファ 87)のメンバーになり、1~2週間に1度の会合に参加し、メンバーの観察および彼らの方言について調査し記録を取った。</li><li>■ 3月 ドイツの方言「シュヴァーベン語」の研究で多くの書籍や論文、新聞の社説などを執筆している有名な研究者、Herman Wax(ヘルマン・ヴァクス)氏をインタビューした。ちなみに、シュヴァーベン語とは、高地ドイツ語の上部ドイツ語の内、アレマン語に属する一方言で、アレマン系シュヴァーベン人の言語である。</li></ul>

<p>7.本研修で得られた成果等（論文・学会発表含む）</p>	<p>本研究では、地元住民組織の文化的な会合や催しに参画し、あるいはそのメンバーとなって、対面形式または小規模の集まりを通じてドイツの方言である「シュヴァーベン語」の使用に関する研究データを収集した。同時に、特定の地域あるいはその周辺において、200名を超える人々に対して調査を行った。</p> <p>今年度後半、これらのデータを基に研究成果を研究誌に発表する予定である。すでに広範囲にわたる数百もの語彙、特に「シュヴァーベン語」の興味深い語彙のリストを編集し終えている。編集後の語彙リストは、ドイツ語の言語学的あるいは文化的な独自性を学習者に伝える役割を担うものとなる。</p>
<p>8.所感</p>	<p>エバーハルト・カールス大学テュービンゲンの多大な協力によって「シュヴァーベン語」の研究を成功へと導くことができ、同大学に感謝したい。この度の機会は、ドイツ語教育においてしばしば見落とされがちな側面、すなわち方言の使用について研究する有益な機会であった。また、ミュンデルキングンの町ならびにその周辺地域の住民から受けた寛大な心と温かい歓待に深く感謝の意を表するものである。住民の方々の貴重な支援と寛容な理解がなければ、私の研究は実現できなかった。</p> <p>私が意図するところは、ドイツ語学習者に対して、「シュヴァーベン語」のような方言の存在と重要性を知ってもらうことにある。本研究を通じて私は、ドイツ語の方言が意味するものを教えることによる教育的効果の向上に関する独自の見識を得た。方言の使用を探求することで、言語学習者はドイツ語のさらなる深みと分かりやすさを培うことができる。</p>

※A4 1枚～2枚以内で作成してください。